

## 2. 火山の概況

(平成16年11月18日～平成16年11月24日)

雌阿寒岳、十勝岳及び樽前山では、噴煙の状況に変化はなく、火口の高温状態が続いていたと推定される。

浅間山では18日にごく小規模な噴火があった。火山活動度レベル（以下レベルと記載）は3。

三宅島では噴煙活動が継続した。

阿蘇山では熱的な活動のやや活発な状態が続いている。レベルは2。

霧島山の御鉢の噴気活動はやや活発な状態が続いている。21日に振幅のやや大きな微動が発生した。

桜島では爆発があった。レベルは2。

諏訪之瀬島では噴火があった。

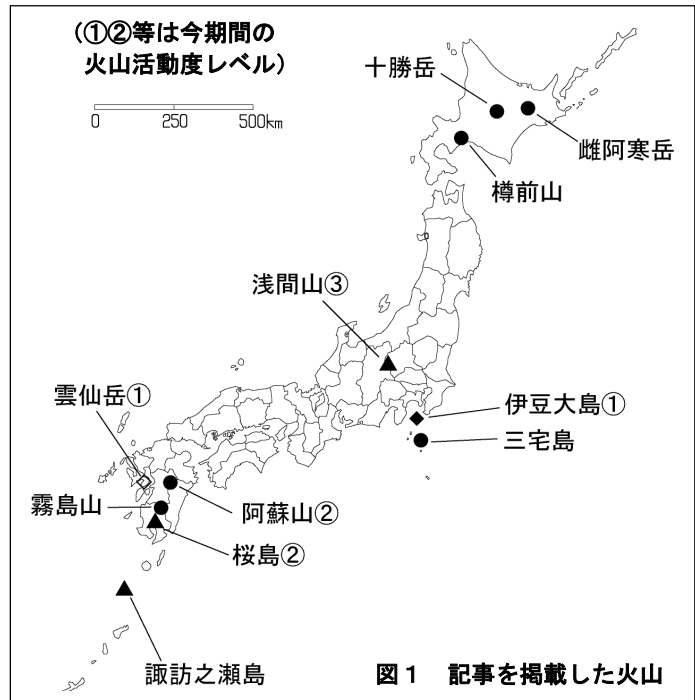


図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を掲載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		雌阿寒岳	十勝岳	樽前山	三宅島	須美寿島	霧島山	薩摩硫黄島	諏訪之瀬島
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号								
48	11/18-11/24	③	▲	①	◆	②	●	①	◇	②	▲	●	●	●	●		●		▲
47	11/11-11/17	③	▲	①	●	②	●	①	◇	②	◆	●	●	●	●		●		
46	11/4-11/10	③	●	①	◇	②	●	①	◇	②	▲	●	●	●	●		●	◆	◆
45	10/28-11/3	③	▲	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●	●	◆	●	●	▲
44	10/21-10/27	③	●	①	◆	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●	●	●	●	▲	▲

注1 記号の意味

- ▲：噴火した火山
- ：活動が活発な状態にあるか、もしくは観測データ等に変化があった火山
- ◆：前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山
- ◇：その他記事を掲載した火山
- ①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

● **雌阿寒岳** [熱]

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

● **十勝岳** [噴煙・熱]

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、高温の状態が続いていたと推定される。遠望カメラによる噴煙の高さは火口縁上おおむね 200mで推移した。17日（前期間）に小さな微動が観測されて以降、火山性微動は発生していない。

● **樽前山** [熱]

A火口およびB噴気孔群の噴煙の状況に変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

▲ **浅間山** [噴火・熱・地震・微動・噴煙・火映] レベル3（山頂火口で小～中噴火の可能性）

18日02時15分にごく小規模な噴火が発生した。この噴火により、ごく弱い空振が観測され、灰白色の噴煙が火口縁上200mまで上がり北東に流れた。

24日に行った上空からの観測<sup>1)</sup>では、前回(11月17日)に比べ火口底の地形に大きな変化はなく、火口底中心部に直径約70mのくぼみが確認された。赤外熱映像装置<sup>2)</sup>による観測では、火口底の最高温度は前記くぼみ付近で観測された571℃以上であった(前回は464℃)。

今期間の火山性地震の発生回数は1日当たり57~194回、火山性微動は9~17回で、ともに多い状態であった。

山麓の監視カメラによると、上記の噴火時以外では白色の噴煙が最高で火口縁上600mまで上がるのが観測された。火映はほぼ連日山麓の高感度カメラで観測され、23及び24日には山頂から約8km南の軽井沢測候所から肉眼でも観測された。

地殻変動データには特に顕著な変化はみられなかった。

1) 長野県消防防災ヘリコプターにより、東京大学地震研究所と気象庁が実施

2) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、大気その他の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

#### ◆ 伊豆大島 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなかった。

#### ● 三宅島 [噴煙・地震]

白色噴煙は山頂火口から連続的に噴出しており、最高で火口縁上700mまで上がった。振幅の小さいやや低周波の地震は1日あたり9~27回観測された。

#### ● 阿蘇山 [熱・噴湯現象・微動] レベル2 (やや活発な火山活動) <期間外の記述を含む>

期間中の中岳第一火口の状況は、監視カメラにより湯だまりの存在は確認されたものの、色、量、土砂噴出や噴湯現象の発生状況は不明であった。25日(期間外)に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、湯だまりの色は灰緑色、量は約8割で前回の観測(11月16日)と変化なく、表面温度の最高は71℃(前回の観測では62℃)であった。湯だまりの中央、西及び南西側で噴湯現象があった。土砂噴出はなかった。

噴煙は白色で噴煙の高さの最高は火口縁上400m(前期間400m)であった。

継続時間の短い火山性微動が発生したが、発生回数は2回で前期間(24回)より減少した。孤立型微動の発生回数は460回であった(前期間は331回)。地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

#### ◇ 雲仙岳 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

#### ● 霧島山 [噴気・微動・地震]

御鉢火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。20日及び22~24日に時々噴気が監視カメラで観測され、その最高は火口縁上100mであった。

御鉢火口付近で21日早朝に振幅のやや大きい火山性微動が発生した。微動発生直後から火山性地震がやや増加した。監視カメラでは噴気活動に特に変化は見られなかった。24日に御鉢火口の現地観測を実施したが、新たな噴出物はなく噴気活動も特に変化は見られなかった。振幅のやや大きい火山性微動が発生したのは今年3月26日以来である。

23日に大霧付近(新燃岳の北西約7km付近)で地震がやや増加した。

#### ▲ 桜島 [爆発・噴煙] レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

期間中、噴火が1回あり、爆発であった(前期間はなし)。噴火に伴う噴煙の状況は雲のため不明であった。また、有色噴煙が時々観測され、期間中の有色噴煙の最高は400m(灰白色)であった。鹿児島地方气象台(南岳の西南西約11km)で降灰は観測されなかった(前期間もなし)。

### ▲ 諏訪之瀬島 [噴火]

19 日朝、23 日午後及び夕方、24 日午後に噴火が発生した。19 日の噴火では灰白色の噴煙が火口縁上高さ 300m、23 日午後の噴火では同 500mまで上げているのが監視カメラで観測された。また、平島小学校諏訪之瀬島分校によると、23 日夕方及び 24 日午後に火山灰が西へ流れているのが確認された。

平島小学校諏訪之瀬島分校によると、期間中、集落（御岳の南南西約 4 km）で降灰はなかった。

表 2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 150 号	18 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（ごく小規模な噴火が 2 回発生、地震やや多い、肉眼で火映を観測、前日に実施した上空からの火口観測結果）。レベルは 3。
	火山観測情報第 151 号	19 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、地震、微動やや多い）。レベルは 3。
	火山観測情報第 152 号	20 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、地震、微動やや多い、微弱な火映を観測）。レベルは 3。
	火山観測情報第 153 号	21 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、微動やや多い、微弱な火映を観測）。レベルは 3。
	火山観測情報第 154 号	22 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、微動やや多い）。レベルは 3。
	火山観測情報第 155 号	23 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、微動やや多い、肉眼で火映を観測）。レベルは 3。
	火山観測情報第 156 号	24 日 16:00	前日及び当日 00 時～15 時の活動状況（噴火はなし、微動やや多い、肉眼で火映を観測、上空からの火口観測結果）。レベルは 3。
三宅島	火山観測情報第 644 号 ↓（1 日 2 回発表）	18 日 09:30 ↓	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
	火山観測情報第 657 号	24 日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第 55 号	19 日 11:00	火山活動は引き続きやや活発（噴湯現象あり、連続微動発生）。レベルは 2。
霧島山	火山観測情報第 23 号	21 日 08:50	御鉢付近で火山性微動が発生。